

第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました



釧路湿原は今年でラムサール条約登録30周年を迎えました!!

平成22年8月4日(水)に、16名が参加して「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催。「釧路川の水質・水生生物調査と、鶴居村キラコタン岬での湿原学習」を実施しました。

水質・水生生物調査について

北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に川の水質状況を調査しています。

この調査は、川の水質を参加者に直接確認して頂き、川に対する関心を高めて頂くことを目的としています。

しべちゃ水辺の楽校にて調査

調査は、川レンジャーが3～4名の班に分かれ、水温・川底の感触・流速・透視度などの「川の状態観察」、簡易水質試験用具を使った「簡易水質検査」、川底の石や「たも網」に付着した生物を採取する「川の水生生物調査」などを行いました。

調査終了後、各班から結果報告を行い、A～Eの5段階で評価すると「川の状態観察」の川底の感触ではBランクでしたが、他の項目すべてが1番良いAランクとなり、川の環境としては非常に良好であるとの結果となりました。



水質・水生生物調査に参加した釧路湿原川レンジャー



スタッフから説明を聞く参加者



透視度



水温



川底の石を採取



たも網



簡易水質検査



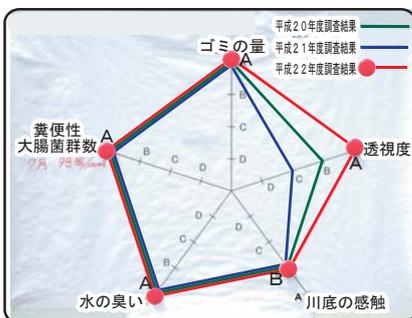
水生生物を観察



調査に参加した祖父と小学生
調査の総合評価

人と河川の豊かなふれあいの確保

豊かな生態系の確保 (生き物の住みやすさ)



ランク	説明	DO (mg/L)	NH4 ⁺ -N (mg/L)	水生生物の生育
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2未満	1.きれいな水 ・カサゲラ ・オオシマトビケラ 等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上 7未満	0.2以上 0.5未満	2.少しきかない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ 等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好とは言えない	3以上 5未満	0.5以上 2.0未満	3.きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ 等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0以上	4.大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ 等

■「人と河川の豊かなふれあいの確保」は
「川の中に入って遊びやすい」
総合評価:「Bランク」

■「豊かな生態系の確保」は
「生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好」
総合評価:「Aランク」

キラコタン岬で湿原学習

午後からは、釧路湿原ボランティアレンジャーの沢田正雄さんに解説と案内をお願いし、キラコタン岬での釧路湿原学習を行いました。

薄曇りの空に時おり日が差す絶好の学習日和となりました。途中でアキアジ沼に立ち寄り、約30分でキラコタン岬に到着しました。

参加者の中には、初めてキラコタン岬にきた方々もあり、高台からの眺望に感動し、カメラに納めていました。



高台から見たツルワシナイ川



出発前にまず準備体操



森林浴を浴びながら岬へ



途中でアキアジ沼に立ち寄り、説明を聞く参加者



キラコタン岬位置図



拡大図



沢田さんの主な解説

- ・キラコタン岬は、国立公園の特別保護区に指定され、私有地でもあるため、許可なく立ち入りが出来ない区域です。
- ・「キラコタン」とは、アイヌ語で「逃げ移った村」と言い、今から6000年前は海で、3000~4000年前頃にほぼ今の湿原の形になりました。
- ・明治期に絶滅したとされていたタンチョウが、大正13年にツルワシナイ川地区で生息が再発見されました。
- ・アキアジ沼は、湧水があり冬でも凍らない沼で、昔はアキアジ(鮭)が見られた事に由来するようです。

※出典：釧路湿原国立公園 自然解説マニュアル（環境省）



パネルを使って説明するボランティアレンジャーの沢田さん



高台へ移動して湿原を展望



高台から見る釧路湿原に感動



キラコタン岬で湿原学習